

登録コード	MA730400		開講年度	2026			
授業科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学演習					担当教員	中込 さと子 他
英文授業名	Practice in Reproductive Health					副担当	金井 誠・芳賀 亜紀子・徳武 千足
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・4時限 火曜・6時限	対象専攻 / 学年	母子看護学領域 / 2年次
講義室				授業形態	演習	授業科目区分	選択科目
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素						
	MS26カリ(保健学), MS25カリ(保健学), MS24カリ(保健学), MS23カリ(保健学)						
	【研究科共通】医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。				セクシャルリプロダクティブヘルス・ライツに関わる医療ケアに関する情報収集する能力、ジェンダーの視点から課題を分析する能力、研究技術を獲得する。		
	【保健学】保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。				セクシャルリプロダクティブヘルス・ライツに関わる当該分野の発展に寄与する独創的な研究を遂行する。		
(2)授業の概要	本コースでは、リプロリプロダクティブヘルス・ライツに関連する自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げます。また、本コースは、担当教員のリプロダクティブヘルス領域の研究実務経験を活かした演習を行います。						
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	リプロリプロダクティブヘルス・ライツに関連する自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコルまたはフィールドワークの計画について学びます。 以下、自己の課題の研究計画を通して、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ研究に特記すべき事項、研究対象となる母集団を特定する過程、研究する変数の測定法の特定の過程、人権擁護・倫理的配慮を検討する過程、研究計画書と研究倫理審査委員会提出資料を完成する過程を学びます。						
(4)達成目標（個別行動目標SBOS）	1．リプロリプロダクティブヘルス・ヘルスに関連する自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコルまたはフィールドワークについての計画ができる。 2．自己の課題の研究計画の研究対象となる母集団を特定できる。 3．自己の課題の研究計画の研究する変数の測定法を特定できる。 4．自己の課題の研究計画の人権擁護・倫理的配慮を検討できる。 5．自己の課題の研究計画書と研究倫理審査委員会提出資料を完成できる。						
(5)授業計画	中込さと子, 他 日時は受講学生と検討のうえ決定する。 4月13日 第1～2回 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成 4月20日 第3～4回 研究対象となる母集団の特定 選考基準と除外基準の明確化 4月27日 第5回 中間報告会 5月11日 第6～9回 研究する変数の測定法の特定 質的研究の場合は面接・観察法の訓練 5月18日 第10～12回 研究倫理について 依頼および説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 5月25日 第13～14回 研究計画書の作成 6月 1日 第15回 計画書検討会（金井、芳賀、徳武）						
(6)授業の進め方	自らの研究課題に即して、フィールドワーク、プレテストを作成するなど、研究方法の信頼性や妥当性を保証するとはどういうことか、について検討します。 その過程を通して本調査、本実験等の準備を行います。 授業の中では、演習の結果を発表し討議を進める中で、各自の研究課題や方法について各種条件を整えていく。手法や内容によって適宜専門家に相談し進めます。						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	授業前後には必要な時間、予習と復習に当てること。 本演習のゴールは、研究計画書を仕上げるができることである。 以下の課題について準備をする。事前事後学習は少なくとも4時間以上は必要でしょう。 第1～2回 課題：修士論文の研究デザイン 第3～4回 課題：母集団、研究対象者の選考基準と除外基準 第5～6回 課題：測定方法の特定 第7～9回 課題：選択したデータの収集方法 第10～12回 課題：研究上の倫理的配慮 第13～15回 課題：研究計画書の完成						
(8)成績評価の方法	学生の研究計画立案にあたって論理性、妥当性、新規性の観点から評価します。 中間報告会（30％）研究計画書（70％）をもって以下の成績評価の基準に準じて評価します。 90-100点（秀）、80-89点（優）、70-79点（良）、60-69（可）、60点未満（不可）						
(9)成績評価の基準	成績評価の基準は以下のとおりです。 問題の設定が適切であり、その問題の背景を説明できており、その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」から の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「合格水準にある(可)」。						
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時、受け付けます。 snakagomi@shinshu-u.ac.jp(中込さと子)、akihaga@shinshu-u.ac.jp(芳賀亜紀子)、ctokuta@shinshu-u.ac.jp(徳武千足)、makotok@shinshu-u.ac.jp(金井誠)						

【テキスト，教材，参考書】	適宜，紹介します。
---------------	-----------